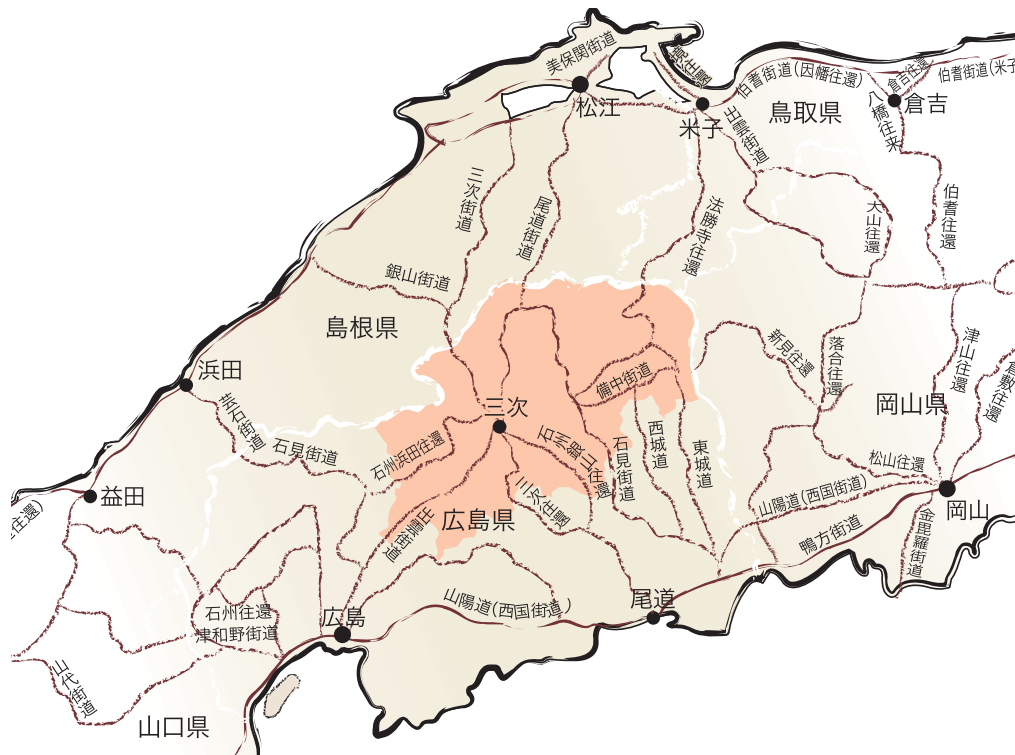


備北地域の道づくりの歴史

備北地域は、古くから陰陽を連絡する陸運・水運の拠点として三次市を中心に発展してきました。江戸時代には街道の整備が進み、5本の脇街道が三次市を中心として会合していました。広島と松江を結び、大森銀山諸荷物や備北特産の鉄・牛・麻^{あさお}などを尾道に送り出す経済の道としての役割を担っていたと考えられています。



備北地域の交通の現況

備北地域の幹線道路は、中国縦貫自動車道のほか、三次河川国道事務所の管理する一般国道54号と広島県の管理する一般国道183号、184号、314号、375号、432号、433号で構成されています。一般国道のうち4路線が三次市を中心として放射状のネットワークを形成し、一般国道54号三次市中心部などで平日24時間で15,000台以上の交通量があります。

また、鉄道網は、JR芸備線・JR福塩線・JR三江線の3路線が三次市を中心として放射状のネットワークを形成しています。

